

子どもたちが自然環境の大切さを学ぶ  
 暑い毎日が続いていますが、子ども達にとっては待ちに待った夏休みがやってきました！  
 7月27日土曜日「夏休み子ども環境体験フェア」が開かれ、児童と保護者15人が水辺の生き物の観察とトキの飼育員体験をしました。



まずは生き物の観察！トキと自然の学習館から歩いて10分ほどの田んぼ脇の水路で、トキのエサとなる水辺の生き物がどれくらいいるのか寺泊水族博物館の学会員と一緒に探しました。



初めて水路に入るといふ児童もいて、慎重に歩きながら網をすくい、かかった生き物の種類や名前を学会員に聞いていました。

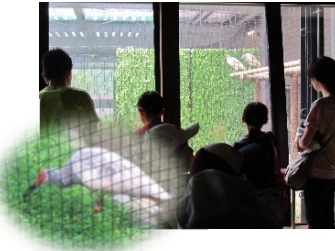


この日はトノサマガエル・ザリガニ・モズガニ・ドジョウなど、10種類以上の生き物を採取できました。

学会員は「トキが暮らすためには一年を通してこうした生き物が採れる事が大切で、佐渡のようにな冬でもたんぽぽの水をはるなどして生き物が生息できる環境を作っていかなければならない」と話していました。



トキと自然の学習館ではトキの生態について解説しました。トキはエサとなる水辺の生き物がいないと生きていけません。水辺の生き物もまたエサとなる微生物や藻類がいないと生きていけません。  
 豊かな自然環境を守らなければすべての生き物が暮らしていけないことを伝えました。

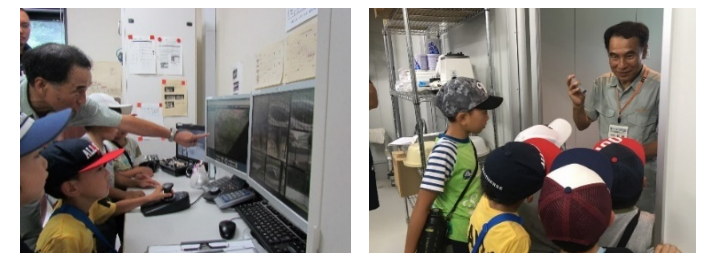


その後はトキを観察し、いよいよ飼育員体験です！飼育しているトキに与えている「馬肉飼料」づくりに挑戦してもらいました。

トキのエサに馬肉を与えていることを驚いていましたが、一生懸命材料を混ぜ合わせ、楽しそうにミンチにする作業をしていました。



バックヤードでは監視カメラでトキを観察をしたり、ヒナを人工飼育する部屋などを見学しました。獣医師がヒナにエサを与える際に使う針の無い注射器「シリンジ」を見せ、「成長するごとに口の大きさに合わせたものに変えていく」と説明しました。



普段聞くことができない話に、児童や保護者からもたくさん質問があがっていました。この夏休みの体験が少しでもトキ保護の大切さや環境問題について考えるきっかけになってくれたら嬉しいです。